

「村落研究と環境問題にかかわる課題発掘」

テーマ・セッションへのお誘い

琵琶湖博物館開設準備室 嘉田由紀子

本学会でのテーマ・セッションは、過去の本学会での研究蓄積を情報源、エネルギー源としながら、新しい研究方向を模索する場であると解釈する。今年度のテーマ・セッションでは、現在社会的に問題とされている環境問題が、村落研究といかに切り結ぶことができるのか、その糸口を探り出し、今後の研究の深化を図るための第1歩とすることを課題としたい。

現代の日本社会においては、農産物の海外からの輸入や、都市的生活領域の拡大などにより、農業や農村の経済的、政治的、また社会的比重はますます縮小されつつある。ところが、こと環境と人間のかかわりという面からみると、日本の国土面積の中での森林、農地、水域など、農林水産業がかかわる国土領域の問題は、決して無視できるものではない。また人びとの生命／生活／文化の維持過程においても、都市的生活様式が深まれば深まるほど、一方で農山漁村への期待は社会的にも高まりつつある。

また一地域、あるいは一国の環境問題が、今や地球規模での問題と根源的につながっているという認識はますます深まりつつある。

近畿地区大会での報告要旨で述べたように、筆者は、現在の環境問題には、広義の「環境」問題と狭義の「環境問題」が存在すると考えている。またいずれの問題も、村落が本源的に有している「人間」「作物」「領土」の保全という課題領域にかかわるものと考えている。とはいえ、この分野の研究は、実証面、理論面、いずれにおいてもまだその緒についたところである。

そこで、このテーマ・セッションでは、課題深化の準備段階としての、いわば“課題発掘”というねらいをもって、以下の二つの視点を柱に、セッションの組立を考えていきたい。

(1) 広義の「環境」問題に関する村落研究の蓄積を踏まえた上での、狭義の「環境問題」へのアプローチ。その歴史的、空間的な展開過程等に関する課題提起。

(例：村落社会の人間／文化保全機能と「環境問題」、村落社会の作物保全機能と「環境問題」、村落社会の領土保全機能と「環境問題」等)

(2) 村落における「人間自然相互作用系」という総体の環境問題構造を解釈するための、異なった学問分野の相互乗り入れを図るための、新しいパラダイム提案等。

(例：自然観や環境観の都市／農村比較、農業生態系と自然生態系、資源循環過程をめぐる歴史の変遷等)

会員だけでなく、非会員の方がたも含め、チャレンジングな報告や問題提起を期待します。